

7/20 参院選の民意は放置。

国民生活ほったらかし！国会茶番。

猛暑にもエアコン控える現実を放置。

9月市議会での一般質問の件名を「夏休みの宿題一市政課題 2025」と当初通告していたのですが、直前、サブタイトルに“参院選の民意を放置した国会茶番劇の迷惑”と追加しました。

まずは猛暑の夏休みにどれだけ市民生活が困窮する状況にあったのかを確認。8月末までに熱中症で家から搬送された42名のうち43%がエアコン不使用。12%はエアコンを確認できず。国の指示で消防がカウントするようになったのですが、国はカネを出せという話です。▶

「生活保護費引き下げは違法」（6月27日最高裁）なのに謝罪も賠償も放置。

生活保護費には冬季加算はあっても夏季加算が無いことでエアコンの使用が抑制される問題について、以前から加算の必要を訴えてきました。

加えて、2013年から第二次安倍内閣で「デフレ調整」を理由に生活保護費を引き下げていたことは不当だと訴える裁判が全国で提起されて藤沢市も被告になっていたのです。▶

これについて6月27日最高裁は、当時の厚生労働大臣の裁量権に逸脱、濫用があり違法と断じました。ところが、謝罪も賠償責任も果たされずに夏を越したのです。

この時季、7/20 参議院選挙で政権与党を過半数割れに追い込んだ野党は何をしていたのかという問題です。

ガソリン減税も8月臨時国会には共同提案せず「11/1 施行」に延期することを立憲、国民、維新の国対が決めていたのです。「自民党への配慮」との下心で「11/1」すら担保できず、10/10には野田代表が「来月は無理」と会見する呆れた顛末に。あれだけ選挙で競って訴えた消費税減税はスルー。現金給付も無し。権力争いに終始して、夏場に追い詰められていく国民生活にまったく関心のない国会茶番が問題だったのです。

夏休み拡大する子どもの困難も放置。

NPO で夏休みが続いてきた「子ども弁当」が限界を超えました。去年の1.5倍 2268 個は予想を大きく上回り継続困難です！▶

藤沢みらい創造財団が青少年会館で実施した「宿題 & ご飯しよー！」という無料の子ども応援事業にも応募倍率 5.7 倍！

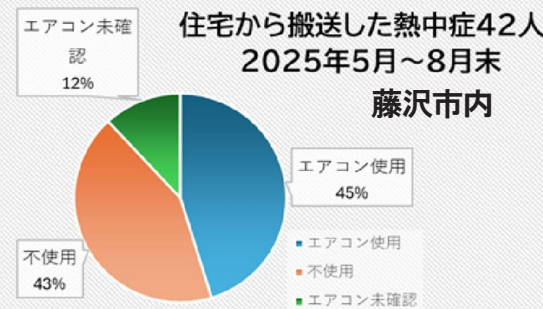
夏休みの昼ご飯問題は、共働き、ひとり親が増え、長引く物価高が放置され実質賃金が上がらずに当然深刻になっています。加えて、留守番する子どもの居場所が猛暑で限られ、「地域子どもの家」には18館中16館にエアコンが無く暑さ指数を超えれば駆け回る遊び禁止。公園に行けばボール遊びも花火も禁止。夏休み明け不登校やいじめが増える傾向は子どもたちのSOSに他なりません。

生活に切羽詰まれば永田町政治を見限った民意が排他的吹聴に惑わされる危うさも参議院選挙は教えてくれました。

あなたの困りごとに向き合い、社会課題の解決に挑み「宿題」を果たそうとするまともな政治が必要です。一緒に変えましょう。



市議会 9/22 本会議より

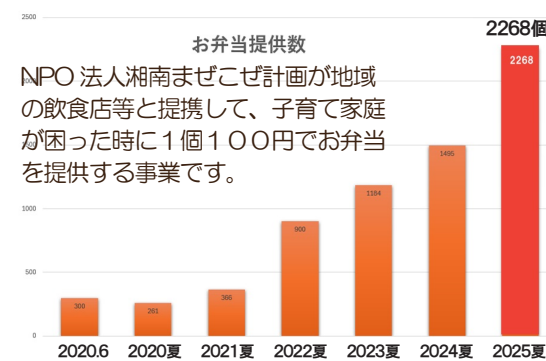


2022年12月1日（訴えの提起）
「生活保護基準引下げ違憲処分取消等請求事件について」市が控訴することの是非。

国による「引下げ」判断に、22年10月19日横浜地裁判決は、『判断は専門家による議論を経ず、引下げに用いた物価指数は、生活保護受給世帯の支出が少ないテレビやパソコンの価格下落の影響を受けたもので、合理的関連性を欠いている』と指摘して『引下げの判断は違法』と断じ、生活保護費を引下げた自治体の決定を取り消しました。これに対して国に同調した藤沢市も控訴を決め、その判断の是非が本会議に諮られたのです。

生活保護水準の一割カットを掲げた自民党が当時政権に返り咲き、安倍政権が『デフレ調整』なる言葉で生活保護費の削減を進めたことへの審判でしたが、控訴に反対したのは共産党と私だけでした。

子ども弁当 夏休み提供数の推移



知らなくて損してる？
生活と憲法の話！
弁護士が教えてくれる



講師 椋 大樹氏

1975年生まれ。
ひろしま市民法律事務所
長・弁護士。
『檻の中のライオン』『けんぼう絵本 おりとライオン』『檻を壊すライオン』
著者。檻の中のライオン講演は市民だけでなく、小中高校・大学や自治体なども主催し全都道府県で1000回以上開催されており、楽しくわかりやすいと好評を博している。



11/4(火) 18時00分～20時30分 (開場17時30分)
藤沢商工会館ミナパーク 505 会議室 (36名)
藤沢607-1 (藤沢駅北口3分)

◆参加費：1200円 ※憲法条文が一目で分かる特製クリアファイル付きです (小学生～高校生無料・大学生500円 ファイル希望+200円)
◆主催：檻の中のライオン in 藤沢実行委員会 参加申込フォーム▶
◆連絡先：090-5449-1160 (原田)



「なぜ憲法はあるの？」子どもたちに説明ができますか？
「ライオン＝国家」「檻＝憲法」にたとえて、広く一般の方を対象にした憲法の“教科書”「檻の中のライオン」を著して全国で講演する椋大樹さんのお話をあなたと一緒に聴きたいと思います。
憲法問題と政治問題は次元の異なる問題です。
椋さんは、相撲でいうと憲法は「土俵」にあたり「右」の力士と「左」の力士が相撲を取ってどちらが勝つかは政治の問題だと例えています。
近頃では政治的思想的信条の違いが増幅されて「排他的な言動」がむき出しとなり「人権」が脅かされていますか。お互いの違いの前に、まずは「土俵」であり「檻」である憲法の仕組み、「なぜ憲法があるのか？」その憲法のもとで私たちの「人権」はどうなっているのか一緒に考えましょう。ご参加お待ちしております。